

# 2020年度 健康科学部心理学科3回生 専門教育ガイダンス資料

光華naviでの履修登録にミスがあると単位が認定されません。十分注意してください。

## 【履修登録までの流れ】

授業は4月20日(月)から開始します。それまでに各自で通年の時間割(前期・後期)を作成してください。

なおWeb履修登録期間は4月13日(月)0:00～4月24日(金)23:59です。後期履修登録期間で、科目の追加・変更が可能です。後期に受講する科目も前期履修登録期間中にすべて登録してください。

わからない点がある場合は、クラスアドバイザーあるいは教務委員(今西)に問い合わせてください。また、4月13日(月)以降、できる限り早く履修登録を行い、4月16日(木)までにはいったん完成させるようにしてください。

履修科目の取消期間は4月28日(火)です。GPA(学業平均値)に影響しますので、受講を取りやめた科目は必ず履修を取り消してください。

履修登録について、わからないことがある場合は、教務委員の今西までメール(imanishi@mail.koka.ac.jp)で質問してください。

## 1. 基礎・教養科目(卒業所要単位30単位。うち、15単位必修、15単位選択)

### <基礎教養科目の履修および再履修について>

卒業に必要な30単位のうち、不足しているものを選択して履修すること。

また、単位が取れなかった必修科目は必ず再履修すること。

必修15単位: 仏教の人間観Ⅰ・Ⅱ、シチズンシップ、英語S1a、S1b、S2a、S2b、ICT演習Ⅰ・Ⅱ、日本語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、京都光華の学び

選択必修: 健康の科学、スポーツ実技Ⅰ・Ⅱのうちいずれか1科目を選択

選択科目: 残り13～14単位(選択必修でどちらを選ぶかで変わる)を自由に選択

### <基礎・教養必修科目の再履修上の注意>

詳細についてはリベラルアーツセンター配布資料「**基礎教養教育科目の履修について(2020年度)**」をご覧ください。

1、2年次の必修科目が不合格になっている人は、必ず再履修すること。

- ・「仏教の人間観Ⅰ」(前期)、「仏教の人間観Ⅱ」(後期)

クラス指定はないので、時間割上都合の良いクラスを履修すること。

- ・「シチズンシップ」

bクラス(前期木4)かaクラス(後期火2)のどちらかを履修すること

- ・英語の再履修については、不合格となったのと同じ科目を再履修すること。

「英語S1a」前期月5、「英語S2a」後期月5、「英語S1b」前期木5、「英語S2b」後期木5を履修すること。

- ・「ICT演習Ⅰ・Ⅱ」を再履修する場合は、月1～4のクラスを自由に選択して履修すること。

- ・「日本語コミュニケーションⅠ」は前期水5の再履修クラスを履修すること。

「日本語コミュニケーションⅡ」は後期火1aクラス、後期火2bクラス、後期木3cクラスのいずれか(アカデミックライティングと共通開講。専任の先生のクラス)を履修すること。

- ・「スポーツ実技Ⅰ」「スポーツ実技Ⅱ」についてはリベラルアーツセンター配布資料を確認すること。

## 2. 専門科目(卒業所要単位98単位)

### <3年次の必修科目>

**心理学専門演習Ⅰまたは心理学専門演習Ⅰ(保育実践演習)・心理学専門演習Ⅱ**※分属されたゼミを履修すること。

川西ゼミ(前・後期木4)、竹西ゼミ(前・後期木2)、徳田ゼミ(前・後期金2)、鳴岩ゼミ(前・後期月3)、心理学専門演習Ⅰ(保育実践演習)(前期金2)

### <専門必修科目の再履修>

以下の科目は必修なので、単位が取れていない科目は今年度必ず履修すること。

「心理学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」(前期・後期金4のaクラス(千野先生)、前期・後期金4のbクラス(礪波)、前期・後期火4のcクラス(藪添先生)のうち自由に選択して履修すること)、「心理学基礎演習Ⅲ・Ⅳ」(前期・後期金3の

a クラス (徳田先生)、前期・後期木3のbクラス (鳴岩先生)、前期月3・後期木2のcクラス (藪添先生)のうち自由に選択して履修すること)、「心理学概論」(前期月4)、「社会心理学入門」(前期金1)、「発達心理学入門」(後期火2)、「臨床心理学入門」(前期火1)、「社会と統計」(前期金4)、「心理学研究法」(前期金3)、「専門職の連携(基礎)」dクラス(後期水2)、「臨床心理学概論」(前期月2)、「心理学的支援法」(後期月4)、「発達心理学」(前期水1)、「社会・集団・家族心理学」(前期水2)、「心理学統計法」(後期金3)

### <3年次から開講される主な選択科目> ※保育士資格科目は除く。公認心理師科目は(公)の表記のある科目。

メンタルヘルス論 (後期火3)、健康・医療臨床心理学 (公) (前期木3)、教育・学校心理学 (公) (後期木1)、

福祉心理学 (公) (前期水4)、人体の構造と機能及び疾病 (公) (後期水3) 関係行政論 (公) (後期木5)

精神疾患とその治療Ⅰ (公) (前期月4) 通常の授業時間外に2コマ分の集中講義を行うので注意すること。

犯罪者プロファイリング演習 aクラス(後期火2)、bクラス(後期水2)、対人スキル・コーチング演習 (後期金4)

心理実習Ⅰ (公) (前期集中。前期月5および学外施設への見学実習)

心理実習Ⅱ (公) (通年集中) 9月に学外施設で観察実習の予定であるので、日程のアナウンスに注意すること。

※心理実習Ⅰ・Ⅱは昨年度受講を認められた者のみ履修可。「受講予定者名簿」を参照のこと。受講する者は、抗体価検査の結果と母子手帳を、保健室に提出すること(提出方法と締め切りについては後日連絡する)。

心理演習Ⅰ・Ⅱ (公) (後期月4、5) カウンセリングのロールプレイと実技指導を中心とした学内演習。

※昨年度履修希望を未提出で履修を希望する者は、授業担当者に相談すること。

心理学実践演習(子ども相談) (前期水2)

\*保育士資格実習科目であり、相談援助の理論と技術の修得を目的とする。カウンセリングセンターで毎週水曜日に行われている親子教室に実習生として参加し、実際に親子関係を観察し、子育ての悩みを聞く機会を持ち、子ども相談のあり方を検討・考察する。

小児看護学 (前期木1)、包括的ヘルスケア論 (前期金2)、ターミナルケア (後期月3)、

生命倫理 (後期月2)、生涯発達心理学 (後期水4)

\*他学科の専門科目であるため、初回授業時には必ず出席し、履修については自分で判断すること。

(発達支援実習(通年集中) 保育心理士資格科目であり、履修は「保育実習Ⅰ」履修済みの者に限る。

保育士・保育心理士希望者は4年次に履修すること)

### ●保育士資格取得希望者のみ履修可能な科目

子どもとことば、児童・家庭福祉(子ども家庭福祉)、家庭支援論、社会的養護、保育原理、教育原理、保健医療保育概論Ⅰ・Ⅱ、保育課程論、子どもと健康、

および自由科目の地域福祉Ⅰ・Ⅱ、社会保障Ⅰ・Ⅱ、生活保護制度、権利擁護と成年後見制度、障害者福祉、子ども

の食と栄養 b、保育内容総論、乳児保育演習、障がい児保育、社会的養護内容、子どもの体育、音楽療法、図工、保

育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ(保育所)、保育実習Ⅰ(施設)は、保育士資格取得希望者のみ対象の科目であり、それ以

外の者は受講できないので履修登録しないこと

但し、自由科目「音楽療法」「図工」に関しては、今年度対象者が少人数のため、社会福祉専攻と合わせて数名の履修を認める。受講を希望する者は履修登録前にメールで礪波に履修希望の旨の連絡を入れること。

●大学院受験者推奨科目 ※心理学の大学院受験を目指す人に推奨する科目。

心理学英語文献講読Ⅰ (後期水2)、心理学英語文献講読Ⅱ (前期水2)、心理学特別演習Ⅰ (後期月2)

●社会調査士資格科目 ※「履修のてびき」(pp.298-300)にて履修科目を確認すること

社会と統計 (前期金4)、心理学データ解析Ⅰ a,bクラス (前期木5)、心理学データ解析Ⅱ a,bクラス (後期木5)、

社会調査法 (前期月2)、社会調査実習Ⅰ (前期火1)、社会調査実習Ⅱ (後期水1)、心理学データ解析Ⅲ (後期金1)

●認定心理士関連科目 ※「履修のてびき」(pp.290-294)にて履修科目を確認すること。

次の科目は、必修ではないが、認定心理士取得を目指す人は必要条件となるので未取得の場合必ず履修すること。

教育心理学 (後期火5)、心理学実験Ⅰ・心理学実験Ⅱ (後期火3・4)

●卒業論文に必要な選択科目

4年次に「卒業論文」の履修を希望する人は、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理学データ解析Ⅰ・Ⅱ」の修得が必要条件となるので未取得の場合は必ず履修すること。「卒業論文」で質問紙調査や実験など量的データを扱う調査を行う予定の人は「心理学データ解析Ⅲ」(前期木5)を必ず受講すること。

●公認心理師科目 履修のてびき」(pp.301-302)にて履修科目や注意事項を確認すること。

### 3. 自由科目・他学科科目履修 \*自由科目・他学科科目履修は要卒単位128単位には含まれない

保育士に関する自由科目については、資格志望者のみの履修とする。

上級情報処理士・情報処理士の資格科目及び公務員試験受験対策科目として、心理学科カリキュラム外のキャリア形成学科科目を履修することができる。また、ピア・ヘルパーの資格取得のため、短期大学部ライフデザイン学科の科目も履修することが出来る。可能な限り今年度履修すること。希望者は科目等履修申請用紙(対象:ライフデザイン学科科目)に記入の上、教務担当教員(今西)に申し出た上で、捺印後の書類を学生サポートセンター修学担当に提出すること(締め切りを学生サポートセンターで確認のこと)。

●上級情報処理士<sup>㊟</sup>・情報処理士<sup>㊟</sup>資格 (「履修のてびき」上級情報処理士<sup>㊟</sup>p.262～、情報処理士<sup>㊟</sup>p.268～参照)

①上級情報処理士<sup>㊟</sup>科目で今年度履修が可能な科目:

要卒選択科目 女性とビジネス aクラス (後期火3)、bクラス (後期火4)

心理学データ解析Ⅰ a,bクラス (前期木5)

心理学データ解析Ⅱ a,bクラス (後期木5)

自由科目(非要卒科目)

コンピュータ活用A aクラス (前期木2)、cクラス (前期金2)、bクラス (後期金3)

コンピュータ活用B aクラス (前期月1)、cクラス (前期月2)、bクラス (後期月4)

女性と経済 aクラス (前期水1)、bクラス (前期水2)

女性の生き方・働き方 前期火4 女性と現代社会 後期火3

キャリア形成学科科目(非要卒)

情報技術の理解 (後期水5)、情報社会の理解 (前期金2)

②情報処理士<sup>㊟</sup>科目で今年度履修が可能な科目:

要卒選択科目 心理学データ解析Ⅰ 心理学データ解析Ⅱ 女性と経済 女性の生き方・働き方

自由科目(非要卒科目) コンピュータ活用A コンピュータ活用B

キャリア形成学科科目(非要卒) 情報技術の理解 情報社会の理解

●公務員試験対策科目 ※公務員を希望する人は「**公務員試験のための履修科目等の説明会**」  
(4月17日(金))に必ず出席すること

参考に、以下に開講される科目、講座を記す。詳しくは上記説明会に出席して確認すること。  
キャリア形成学科科目

**公務員特別演習発展** (前期水5)、**公務員特別演習応用** (後期火5)

**公務員特別演習基礎** (後期木5) ※2年次配当

※公務員対策講座は授業外にも開講されているため、そちらも併せて受講することが望ましい。

公務員課外講座 (文章理解・数的処理入門・模擬試験) (前期木5)

公務員課外講座 (数的処理) ※16~18回は3限(17回は4限有)(後期水5)

●ピア・ヘルパー資格科目 (ライフデザイン学科科目、学生サポートセンター修学担当に科目等履修生出願票を提出)  
「臨床心理学」、「カウンセリング理論」、「カウンセリングスキル」

## 4. 卒業論文と卒業研究について

### 卒業論文

科目の主題：自分の選択したテーマに適したアプローチに基づいてデータを収集して実証的研究を行う。または幅広いレビューを元にして新しい展望を得て文献研究としてまとめる。

卒業論文の文字数は12,000字以上とする。なお、卒業論文については口頭試問を実施し、評価を行う。

\*4回生の4月時点の修得科目の条件を下記の通り設ける

「心理学統計法」、「心理学研究法」、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」、「心理学データ解析Ⅰ・Ⅱ」の計10単位を修得済みであること

\*口頭試問は、卒業論文提出後、1月末頃に実施する。主査1名、副査1名が論文を査読した上で、計20分の質疑応答を行う。

\*3年次後期の専門演習の最終授業までに卒業論文計画書(A4で1枚)をゼミ担当教員に提出し、卒業論文を選択することの承諾を得る。

### 卒業研究

科目の主題：先行研究を基礎として自分のテーマに基づいて課題を発見し、心理学的観点から考察することができる。

卒業研究の文字数は6,000字以上とする。

修得科目の条件については設けない。

### 卒業論文・卒業研究共通

卒業論文・卒業研究ともに発表会を行う。卒業論文・卒業研究提出後、**2020年1月21日(木)**に実施する。10分間で発表する(A3で1枚のレジュメを用意する)。3年生は卒業論文・卒業研究発表会に必ず参加すること。

## 5. その他の注意事項

- ・残りの時間は、まずは基礎・教養科目(必修科目15単位を含め30単位以上修得)から履修し、さらに残った時間で専門科目から履修すること。ただし、卒業要件に関する科目については、1年間に履修登録できる単位数の上限は48単位以内とする。4年間で128単位の修得が必要であり、1年間の修得単位があまりに少ないと(32単位未満が目安)、4年間で卒業できず、留年が必要となる可能性が出てくるので留意すること(3年終了時に合計80単位未満なら4年間で卒業できないことが確定的になる)。
- ・大学コンソーシアム京都単位互換制度を利用する場合は、学生サポートセンターで締め切りを確認し、それまでに申請するように注意すること。
- ・聴講(履修登録をしていない学科目の受講)を希望する者は、担当教員の許可を得たうえで、修学担当に申し出ること。ただし聴講科目は単位としては認められない。